

## 療育活動を取り入れた体育指導

立神小学校 田畑 美代子

### はじめに

昨年度、転勤したばかりの学校で支援学級の担任となった。学級での個別学習と協力学級で学習するときの支援、そして1・2年生複式19名の児童の体育の授業を担当した。支援学級籍の児童3名も一緒に学習するので、希望して担当させてもらった。希望した理由は、体育の学習活動の中に、療育活動を取り入れたら、支援の必要な子どもたちが参加しやすい体育の時間になるのではないかと考えたからである。

### 1、年間計画

19名中12名が1年生なので、運動会や体力テストなど学校行事に合わせて、その先行学習となるように体育の年間学習計画を立てた。また、行事だけでなく、ドッジボールをゲームとして楽しむ前には、ボールを投げる運動をし、縄跳びをする前にはリズムよく跳ぶ運動をした。初めてのことが苦手な子どもが数名いたからである。授業の中で準備運動は、年間通して「ラジオ体操」である。理由は、運動会の準備運動が「ラジオ体操」だから、慣れるためである。

月	内容	時数	学校行事
4	体そう・・・体づくり (ア) 体ほぐしの運動 サーキット・・・体づくり (イ) 多様な動きをつくる運動遊び 器械・器具を使つての運動遊び (ア) <u>固定施設を使つた運動遊び</u>	7	
5	リレー・・・走・跳の運動遊び (ア) 走の運動遊び ダンス！！・・・表現リズム遊び (イ) <u>リズム遊び</u> 体力テスト・・・体づくり (イ) 多様な動きをつくる運動遊び	2 3	運動会 体力テスト
6	体力テスト・・・体づくり (イ) 多様な動きをつくる運動遊び マットと跳び箱・・・器械・器具を使つての運動遊び (イ) <u>マットを使つた運動遊び</u> (エ) <u>跳び箱を使つた運動遊び・トランポリン</u>	1 4	体力テスト
7	水泳・・・水遊び (ア) 水に慣れる遊び (イ) 浮く・もぐる遊び ドッチビー・・・体づくり (イ) 多様な動きをつくる運動遊び	9	学校水泳
9	ダンス！！・・・表現リズム遊び (イ) リズム遊び しっぽとり①・・・ゲーム (イ) <u>鬼遊び</u> 折り返しリレー・・・走・跳の運動遊び (ア) 走の運動遊び	9	(敬老会)
10	○を目指して・・・ゲーム (ア) ボールゲーム めざせドッジボール①・・・体づくり (イ) <u>多様な動きをつくる運動遊び</u> マラソン・・・体づくり (イ) 多様な動きをつくる運動遊び	1 1	

月	内容	時数	学校行事
1 1	めざせドッジボール②・・体づくり (イ) <u>多様な動きをつくる運動遊び</u> ゲーム (ア) ボールゲーム マラソン・・体づくり (イ) <u>多様な動きをつくる運動遊び</u> とびっこワールド・・走・跳の運動遊び (イ) <u>跳の運動遊び</u> <u>スカイバルーン</u> ・・体づくり (イ) <u>多様な動きをつくる運動遊び</u>	1 1	持久走記録会
1 2	とびっこワールド・・走・跳の運動遊び (イ) <u>跳の運動遊び</u> <u>長縄跳び</u> ・・体づくり (イ) <u>多様な動きをつくる運動遊び</u> ダンス!!・・表現リズム遊び (イ) リズム遊び	7	(冬物語)
1	なわとび・・体づくり (イ) <u>多様な動きをつくる運動遊び</u> ボールけり・・体づくり (イ) <u>多様な動きをつくる運動遊び</u>	9	
2	なわとび・・体づくり (イ) <u>多様な動きをつくる運動遊び</u> サッカー・・ゲーム (ア) ボールゲーム <u>2人で (スカーフ)・・体づくり (イ) 多様な動きをつくる運動遊び</u> しっぽとり②・・ゲーム (イ) 鬼遊び	1 2	なわとび集会 6年生を送る会
3	マットでゴロン・・体づくり (イ) <u>多様な動きをつくる運動遊び</u> 器械・器具を使つての運動遊び (イ) <u>マットを使った運動遊び</u> 鉄棒・・器械・器具を使つての運動遊び (ウ) 鉄棒を使った運動遊び	7	

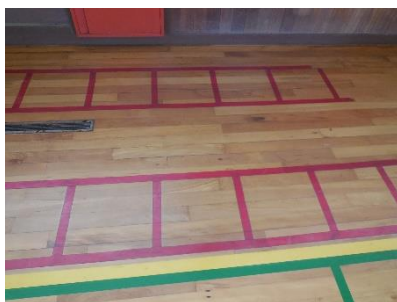
## 2、跳の運動遊び

1 1月に授業公開 (校内研究授業) した時の指導案で、はじめに私が作ったものに、療育活動の視点からコメントを入れてもらってある。(別紙 コメントの名前は仮名)

## 3、1回5分でも続けることで変わる

1・2年生の中で、支援学級の子どもたちは、自分の体を動かすイメージを持ってなく、動きがぎこちなかった。また、人と呼吸を合わせたり同じ動きをすることも苦手だった。そこで、体づくりとして、跳んだりくぐったりする動きや人と合わせて動くことを授業の中にとり入れて1年間続けた。

4月、「さんぽ」の音楽に合わせて運動場の周りを歩くことから始めた体育だった。鉄棒や登り棒にぶら下がり、タイヤとびをし、草の上や砂場、丸太の上を歩いて、子どもたちの動きを見ることから始めた。(表紙 運動場写真) 体育館でも、ライン上を歩いたり跳び箱を乗り越えたり、横



向きや後ろ向きに歩いたりした。音楽に合わせることや人との間隔をとらえさせたかった。支援の必要な子どもたちにとっては、歩くことが難しいのだと、とらえなおす時間だった。ここで、

「支援の必要な子」というのは、学級在籍児童だけではない。(指導案D、E)



スカイバルーンのように大勢で力と呼吸を合わせるものや、スカーフのように2人が阿吽の呼吸で動くものは、1・2年生の子どもたちほぼ全員に難しいことだった。特に、大人が途中に入ることができるスカイバルーンより、子ども2人でするスカーフが難しかった。

一年を通じて気を付けていたことは、「×は出さない。」「繰り返しやる。」「安心できる場を設ける。」「一人でする活動と、人と一緒にする活動をする。」ということ。「〇〇をしてはいけない。」という代わりに「△△しよう。」と言い、「できない。」と固まる子どもに、「見ていて、やろうとおもったら入っておいで。」と待った。

1 授業時間に大きく3つの活動をして、どの子も必ずどれかには入れるように工夫した。低学年の体育は、週に3回あるので、たとえ5分でも1年間続けると体の動きが変わってくる。その5分を療育活動で行っている動きにした。

5年生の児童についても、支援学級での個別の時間に毎日、棒たいそうをした。自分の体のイメージが持てるようになるのと、人とタイミングを合わせることができるようになるのを目的にした。教室で椅子に座るとき、特に給食の時や、体育や集会で座るときの姿勢がよくなった。目に見える形で成果が出たので、学校長や周りの友だちに認めてもらって、満足し自信につながった。

### おわりに

立神小学校では、全校で体力テストに取り組んでいる。今年度の体力テストも終わり、昨年度体育を担当した子どもたち、特に支援が必要な子どもたちの結果が気になった。2年生(昨年度1年生)の子どもたちで、E判定だった4人のうち3人がD判定になった。50メートル走に25秒かかっていた子は、11秒になった。体の動かし方が分かってきたのだと思う。どの学校でも、体育の時間は支援学級籍の子どももみんなと一緒にやっていることが多いと思う。その体育の時間の中に、たとえ5分でも確実に参加できる時間を確保して、その子に必要な動きを練習する時間を取ることを心がけたい。体育だけでなく、一緒に学習活動をするときには、参加の方法を探りたい。



# 障害児の学ぶ場 難しい選択



中学校へ進学する神谷幸多郎君（右）と養育者有子さんと和志さん。東京都世田谷区 森鷗外小

午前8時、東京都世田谷区立中学校の特別支援学級に通う2年生、神谷幸多郎君（13）は黄色い入浴シートを履いて家を出た。赤い服を着た幸多郎君は、父和志さんと母有子さんと（2）が見送った。「心配はほど、壁紙はついでに換えてもらって」（有子さんの声）。

重い障害がある子どもの学ぶ場は2013年以降、本人や保護者が小中学校の通常の学級を望めば、その意思が最大限尊重されるようになった。だが実際は、保護者の負担が大きく、受け入れ態勢も不十分なまま。障害が軽い子どもにも必要な支援を受けられるかどうかをめぐる、通常の学級と特別支援学級の選択に悩める。

いま子どもがアンプラグドのハンタセにあるマルチメディアの電子物理の授業。翌日に試験を控えた高校2年生の女子生徒3人が教師を囲み、回路の「直列」と「並列」の違いについて聞いていた。教科書の例題を追う目の真剣さに「テストは緊張する

た。高校の試験は1日間続き、1日に科目「1人1問」の問題を解くルールを取り組む問題に加え、午後には面接もあり、4、5時間の長丁場だ。ただ、教師も生徒も試験の目的について「評価よりも勉強してきたことを生徒が理解できているか、確認すること」が大切と話す。試験中には教科書の別冊を使うことができ、記号や公式を暗記する必要はない。

「勉強する」という意味を持つ。試験前になると、高校生たちは「読まなくちゃ」と焦りながら、分厚い教科書を抱える。高校では、7週間で1教科あたり200頁の教科書を読まなければならない。中学の教科書も文字は多く、学年が上がるに連れて複雑な長文となる。試験で解答するために、こうした難解な文章を理解し、自分で文章を書く必要



がある。経済協力開発機構（OECD）の学習到達度調査（PISA）でフィンランドが「読解力」の上位となっているのは、こんな教育が背景にある。もともと、普段の試験は

ツラいと無敵ではない。「驚かすのは卒業試験だよ」。3人の女子生徒のうちイタ・アールライネさん（17）が解いた、高校卒業のために受ける全国統一の試験のことだ。成績は、本学進学にも影響する。「卒業試験が失敗したら、もう世界の終わらだよね。イタさんの言葉に、2人の友だちも真顔で大ききうなすいた。（ハンター11高橋孝子）

## 通常学級入り「完全付き添い」負担

障害がある子どもの学習場

障害が一定程度重い子どもは従来、原則として特別支援学校に通うことになっていた。だが、文部科学省は13年、障害のある子どもが、子どもが学ぶ「インクルーシブ（包摂的）教育」の考え方に立つて制度を改正。どこで学ぶかは本人と保護者の意見を最大限尊重して決めることになった。しかし、一定程度の重い障害があり、小中学校の通常の学級で学んでいる子は全国で約2400人にとどまる。

の子どもたちのなかで社会的ルールを学ぶことは将来につながる「慣れ」だ。ただ、負担は重かった。小学校入学前、トルガスくんは働いていた有子さんに代わり、和志さんが仕事の時間をずらして付き添った。昼休みに午後5時頃に交代したが、2年も続ける疲労は体調を崩した。時給10円で毎日10数時間働いた。5年生の時、余立立小中学校に各1人、支援者が配置されるようになった。幸多郎君に付き添ってほしいが、支援を必要とする子は限られた。入学時の条件は

意味があると考えた。3年生のある日、幸多郎君は教室で嘔吐と昏倒をした。付き添っていた有子さんはただまっすぐ直進させた。しかし、翌日、同級生たちは「どうして昨日は帰らなかったの」と言った。有子さんは「受けたいのだから」と思っていたけれど、同級生は一貫して「おまわりが登山教室では風呂も寝るのも同級生が手伝い、クワアノミツを背中をたいて教えてくれたと感謝できた。和志さんと有子さんは言う。「幸多郎も同級生も一緒に学んだからお互いを理解できた。継業者

男が小学3年で診断されるまで発達障害に気づけなかった。先生や友人との関係にうまくいき、一時は登校できなかったが、支援学級に移り、通常の学級と行き来しながら学ぶことができた。ところが、中学で再び不登校になった。通常の学級で、規則も厳しくなる中学校独特の雰囲気に対応しようと頑張った結果、寝てしまった。特別支援学級を勧められたが、授業が物足りないという。発達障害の子どもの保護者のネットワーク「チェリッシュ」5歳の会長の井井啓子理事長（58）は「特別支援教育の仕組みができたことで、逆に障害児を見放している」という意識が広がっているのでは」と記す。発達障害児は、診断の有無に関わらず、支援が必要と思われる子どもを中心に個別の支援計画を立てている。その割合は発達障害児が5.5%だが、中学生で17.5%に激増。同市発達支援室は「早期にかかわることで教員は適切な配慮ができるようになる」という。（森鷗外小 杉原重美）

## 支援と学力 二択に悩む

障害が重い子どもだけでなく、軽い子どもや保護者も学校選択で悩める。今春、埼玉県の市立小学校に長男が入学した現代の母親は、1年半前から特別支援学級の見学を始めていた。長男は発達障害の診断を受けていたが、自宅の校区の小学校に支援学級はなかった。可なり感さなければならぬのかと悩んだ。支援学級は別棟に付いた勉強をしようとしたが、学校ごと

の差もあった。学力の遅れは避けられなかったため、悩んだ末に、校区の小学校の通常の学級に進んだ。授業中に興味が収まらないことがあると担任の先生に聞く。支援学級のほうが手厚い支援が受けられるのではないかと悩む。そんな子が他にもいるようだが、週9回、サバターが配置されるようになった。ただ、1時間数かかない。もしも1長、複数の先生までほしい」と強む。別の埼玉県の40代の母親は、長

や保育を受けられないと、将来の年金や医療、介護の質を確保できませぬ。こうした社会全体のリソースを回すことが、子ども保険の目的だと言います。小泉議員は「僕らの案にも不十分などところがある。小学生が考案する『子ども保険』を、ぜひ開かせてもらいたい」と話し、8月1日に紹介予定。最近のニュースからのクイズで

来週の日経新聞 http://www.asagaku.com/ 自民党の若手議員が提案する「子ども保険」って何？ 発案の中心人物の一人、小泉次郎衆議院議員にインタビューしました。今の子どもたちが十分な教育

【答え】 一人でも多く家庭的な環境で育つこと 【Q1】 ノーベル平和賞受賞者で中 国で活動する、ダライ・ラマの弟、ゲツポ氏は、2008年に民主化を真正面から叩き、"18歳選挙"を推進。この 生みの親が育てられていない子 どもと育てての親が戸籍上の妻の関 係で罰元で罰せられない子が 一人でも多く家庭的な環境で育つこ